



## 2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年11月5日

上場会社名 ホクト株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 1379 URL <http://www.hokto-kinoko.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水野 雅義  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 高藤 富夫 TEL 026-259-5955  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月12日 配当支払開始予定日 2019年12月5日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2020年3月期第2四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年9月30日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	32,143	7.6	△960	—	△1,071	—	△831	—
2019年3月期第2四半期	29,881	7.6	△1,898	—	△1,301	—	△1,132	—

（注）包括利益 2020年3月期第2四半期 △923百万円（－％） 2019年3月期第2四半期 △1,018百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	△26.27	—
2019年3月期第2四半期	△35.25	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	103,040	49,345	47.9
2019年3月期	103,606	52,030	50.2

（参考）自己資本 2020年3月期第2四半期 49,345百万円 2019年3月期 52,030百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	10.00	—	50.00	60.00
2020年3月期	—	10.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	50.00	60.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う子会社の異動）：有  
新規 1社 （社名）Mushroom Wisdom, Inc.、除外 1社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2 Q	33,359,040株	2019年3月期	33,359,040株
② 期末自己株式数	2020年3月期2 Q	1,754,880株	2019年3月期	1,676,250株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2 Q	31,660,310株	2019年3月期2 Q	32,131,010株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(重要な後発事象) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績の堅調な回復や雇用・所得環境の改善が続く一方、米中貿易摩擦の影響、英国のEU離脱問題の影響、消費増税後の景気の減速懸念など、先行き不透明な状況が続いております。また、当社グループの主たる事業領域であります農業分野におきましては、昨夏以降の大型台風や記録的な酷暑などの相次ぐ自然災害による影響により、農産物の供給に影響を及ぼし、激しい相場変動により厳しい経営環境が続いております。

このような経済環境の中、当社グループは引き続き中期的な事業展開に向けた新たな課題に対応するため、「お客様のニーズにお応えした商品戦略、事業戦略の構築」を主眼に置いた経営戦略を実践し、市況に左右されない強靱な企業体質を構築するべく、事業活動を推進してまいりました。当第2四半期もきのこ事業を中心として、健康食材である「きのこ」の研究開発、生産、販売を通してより多くの皆様へ、おいしさと健康をお届けできるよう事業活動を行ってまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高321億43百万円（前年同四半期比7.6%増）、営業損失9億60百万円（前年同四半期営業損失金額18億98百万円）、経常損失10億71百万円（同経常損失金額13億1百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は8億31百万円（同親会社株主に帰属する四半期純損失金額11億32百万円）となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間の生産量は、ブナピーを含めブナシメジ21,200 t（同0.6%増）、エリンギ9,171 t（同0.2%増）、マイタケ6,641 t（同4.3%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間の各セグメントの概況は次のとおりであります。

#### 〔国内きのこ事業〕

生産部門におきましては、衛生管理を徹底し、品質の向上と安定栽培に努め、安全・安心なきのこを提供してまいりました。2018年9月より新たに収穫・出荷を始めましたシイタケ生産におきましては、引き続き品質の向上と安定栽培に努めてまいりました。

研究部門におきましては、品質管理体制の強化、付加価値の高い新製品の開発およびきのこの薬理効果や機能性の追求に取り組んでまいりました。

営業部門におきましては、夏場のきのこ需要を喚起すべく、健康・美容・スポーツを3本柱とした「菌活」を提唱し、鮮度に拘った営業活動を行ってまいりました。販売面では、第2四半期連結累計期間の前半は野菜相場が堅調に推移したため、きのこの価格も前期を上回る状況で推移しましたが、後半は気温が高い日が続く、根菜類やきのこの類の需要が鈍り、きのこの単価は軟調に推移いたしました。

以上の結果、国内きのこ事業全体の売上高は206億98百万円（同11.7%増）となりました。

#### 〔海外きのこ事業〕

米国の現地法人「HOKTO KINOKO COMPANY」におきましては、引き続き非アジア系顧客マーケットの開拓に注力し販売の拡大を行った結果、売上高は計画を上回りました。台湾の現地法人「台湾北斗生技股份有限公司」におきましては、強固な販売チャネルかつブランド力により安定した取引を行うことが出来たことや新規顧客開拓も順調に伸ばせた結果、売上高は計画を上回ることが出来ました。マレーシアの現地法人「HOKTO MALAYSIA SDN. BHD.」におきましては、生産部門は工場建設から4年が経過し安定した栽培が継続する状況になりました。販売面では、中国産とのシェア争いが激しい中、核となる販売先が固まりつつあり、これらの販売先を中心として企画提案販売を進めてまいりました。また、マレーシア国内に限らず、広く東南アジアのマーケットでの販売を展開した結果、徐々にではありますがきのこ市場を拡大することが出来ました。本社海外事業本部において、今後のさらなる販路拡大を目指し、アジア各国および欧州でのマーケティング活動を引き続き行ってまいりました。

以上の結果、海外きのこ事業全体の売上高は24億8百万円（同3.1%増）となりました。

## 〔加工品事業〕

加工品事業におきましては、水煮・冷凍などのきのこの加工品の販売を行うとともに、水煮・冷凍・乾燥アイテムの開発および市場開拓に取り組んでまいりました。また、自社きのこを活用した新商品の開発や販路拡大に努めてまいりました。通販事業では、健康食品・レトルト食品を中心に販売強化を図ってまいりました。また、子会社の株式会社アーデンにおきましては、OEM製品を中心にほぼ計画通りとなりました。

以上の結果、加工品事業の売上高は38億60百万円（同1.0%減）となりました。

## 〔化成品事業〕

化成品事業のうち、中核である包装資材部門におきましては、お客様の潜在的なニーズに応えるソリューション営業を強化し、お客様に喜ばれる営業に注力してまいりました。農業資材部門におきましては、原料を始めとする資材の安定供給と農業栽培におけるコンサルティング業務を強化してまいりました。新規戦略本部におきましては、製造部門の稼働率向上と品質向上に注力するとともに新規製品の受注を強化してまいりました。

以上の結果、化成品事業の売上高は51億76百万円（同1.3%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は245億81百万円となり、前連結会計年度末より21億11百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金13億45百万円及び商品及び製品7億28百万円の増加によるものであります。固定資産は784億58百万円となり、前連結会計年度末より26億78百万円減少いたしました。これは主に、有形固定資産26億92百万円の減少によるものであります。

この結果、総資産は1,030億40百万円となり、前連結会計年度末より5億66百万円減少いたしました。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は281億7百万円となり、前連結会計年度末より28億41百万円増加いたしました。これは主に、短期借入金45億16百万円の増加及び未払法人税等13億52百万円の減少によるものであります。固定負債は255億86百万円となり、前連結会計年度末より7億23百万円減少いたしました。これは主に、長期借入金5億59百万円の減少によるものであります。

この結果、負債合計は536億94百万円となり、前連結会計年度末より21億18百万円増加いたしました。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は493億45百万円となり、前連結会計年度末より26億84百万円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失8億31百万円を計上し配当金15億84百万円を支払ったこと等による利益剰余金24億45百万円の減少によるものであります。

この結果、自己資本比率は47.9%（前連結会計年度末は50.2%）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、台風19号による千曲川堤防の決壊の影響により、赤沼きのこセンター、きのこ総合研究所シイタケ栽培研究施設および子会社であるホクト産業株式会社の豊野工場が浸水し、被害の状況につきましては現在調査中であるため、今回は未定とさせていただきます。業績への影響が判明次第、ご報告させていただきます。

詳細につきましては、2019年10月28日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,055	10,400
受取手形及び売掛金	6,804	6,464
商品及び製品	1,677	2,405
仕掛品	3,665	4,251
原材料及び貯蔵品	710	732
その他	587	356
貸倒引当金	△29	△29
流動資産合計	22,470	24,581
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	64,413	64,190
減価償却累計額	△26,803	△27,699
建物及び構築物（純額）	37,610	36,491
機械装置及び運搬具	56,235	56,974
減価償却累計額	△36,415	△38,725
機械装置及び運搬具（純額）	19,819	18,249
土地	13,989	13,918
その他	2,693	2,828
減価償却累計額	△1,747	△1,814
その他（純額）	946	1,014
有形固定資産合計	72,365	69,672
無形固定資産		
のれん	222	222
その他	141	131
無形固定資産合計	363	354
投資その他の資産		
投資有価証券	6,202	5,864
退職給付に係る資産	867	894
その他	1,356	1,692
貸倒引当金	△19	△20
投資その他の資産合計	8,406	8,431
固定資産合計	81,136	78,458
資産合計	103,606	103,040

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,239	6,223
短期借入金	10,923	15,439
未払法人税等	1,551	199
賞与引当金	1,079	1,120
その他	5,472	5,124
流動負債合計	25,265	28,107
固定負債		
長期借入金	15,494	14,934
新株予約権付社債	9,983	9,983
退職給付に係る負債	344	350
資産除去債務	190	185
その他	297	132
固定負債合計	26,309	25,586
負債合計	51,575	53,694
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,500	5,500
資本剰余金	5,697	5,697
利益剰余金	43,529	41,083
自己株式	△3,096	△3,244
株主資本合計	51,630	49,037
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,255	1,165
為替換算調整勘定	△537	△570
退職給付に係る調整累計額	△317	△286
その他の包括利益累計額合計	400	308
純資産合計	52,030	49,345
負債純資産合計	103,606	103,040

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	29,881	32,143
売上原価	24,358	25,293
売上総利益	5,522	6,850
販売費及び一般管理費	7,421	7,810
営業損失(△)	△1,898	△960
営業外収益		
受取地代家賃	74	58
受取配当金	90	86
為替差益	421	—
助成金収入	33	33
その他	37	32
営業外収益合計	658	210
営業外費用		
支払利息	54	46
為替差損	—	267
その他	6	7
営業外費用合計	60	321
経常損失(△)	△1,301	△1,071
特別利益		
固定資産売却益	122	11
その他	5	0
特別利益合計	128	12
特別損失		
災害による損失	236	0
その他	0	0
特別損失合計	237	1
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,410	△1,060
法人税、住民税及び事業税	161	148
法人税等調整額	△438	△377
法人税等合計	△277	△228
四半期純損失(△)	△1,132	△831
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,132	△831

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純損失(△)	△1,132	△831
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	230	△89
為替換算調整勘定	△143	△33
退職給付に係る調整額	27	31
その他の包括利益合計	114	△91
四半期包括利益	△1,018	△923
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,018	△923
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

2019年10月13日に令和元年台風第19号の豪雨の影響により千曲川堤防（長野市穂保）が決壊し、当社の赤沼きのこセンター（長野市赤沼）、きのこ総合研究所シイタケ栽培研究施設（長野市大町）および連結子会社であるホクト産業株式会社の豊野工場（長野市豊野町浅野）が浸水し、操業を停止しております。

被害状況の詳細、今後の対応および業績への影響等につきましては現在調査中であります。